

## 2019年度 海外インターンシップ報告書

清泉女学院大学 人間学部 文化学科 2年

実習期間	2019年 9月 1日(日) ~ 9月8日(日)	8日間
実習企業	TAKEI PLASTIC (THAILAND) CO., LTD.	
実習地	タイ王国 バンコク	

## 1. 実習目的

Chapter1 purpose

今まで関わったことがなかった製造業に触れることができ自分の視野を広げたい。また、グローバルな広い視点を持ちたいと考えているインターンシップを通し、長野県の企業が世界でどのような役割を担っているのか、どのように製品の魅力を発信しているのかを自分の目で見て、視野や考えを広げてみたいと思い、この海外インターンシップに志望した。

## 2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

1996年設立

従業員数：タイの方212人、日本の方6人

技術提携：(株)武井樹脂製作所 (Takei Jushi, Japan)

金型設計から製作、成形、検査と金型保障から製品保証まで一貫生産システムを行っている企業である。ブレーキの備品やエンジン内の部品など車、バイクなどの樹脂の部品を製作している。

## 3. 実習日程

Chapter3 schedule

- 9月1日(日) 成田空港からスワンナプーム空港へ (移動日)
- 9月2日(月) 挨拶・会社概要説明・打ち合わせ参加・工場内見学
- 9月3日(火) PCミーティング・現場パトロール・New Model Meeting 参加  
課題取り組み
- 9月4日(水) 金型ミーティング参加、現場監督さんにインタビュー
- 9月5日(木) プレゼン準備、5Sミーティング参加
- 9月6日(金) プレゼン・食事会
- 9月7日(土) バンコク市内見学
- 9月8日(日) スワンナプーム空港から成田空港へ (移動日)

## 4. 実習内容

Chapter4 laboratory

9月2日(月)

まず、会社の説明を受け、実際に行われている打ち合わせに参加した。ここでは日本人同士の打ち合わせであったため日本語でのやりとりだったが企業同士の話し合い参加はめったにない機会だと感じた。午後は工場内の見学。金型部門と射出成型での部品

成型の大きく2つに分かれている。

9月3日(火)

この日は作業者が安全に作業できているかどうか、整理整頓はしっかりとされているか、危険なこと、問題はなにもないかなどをチェックする現場パトロールに参加した。マネージャー含めた6人体制で周っていた。細かいところも見逃さずしっかりと丁寧に見て周っていたことが印象的である。

この会社はとても『5S』を大切にしている。『5S』とは「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」を意味する。この5Sを従業員全員が大切にしており、各ポイントに箒、ちりとり、ゴミ箱が設置しており気づいた人が誰でも掃除をすることができるようになっていた。しかも箒などの道具一つ一つにナンバリングがされており、あった場所に片付けられるようになっている。実際に髪の毛一本でも落ちていたら拾っている従業員の方をインターンシップ中何回も見かけることができた。「ゴミ一つ落ちていない」という言葉が言えるところはなかなかないと思う。

この日の午後は日本の方にある課題を頂いた。小さい部品の小さな溝を効率よく図るにはどうしたらよいかというものだ。この工場内にヒントがあるか探してみてものことだったので一人で工場内を見て周った。言葉は通じなくても近くに見に行ったら優しくジェスチャーで教えてくれる方々が多く自分でも参考になるものを見つけることができた。この発表をインターンシップ最終日に行った。



ナンバリングしてある掃除道具



細かい道具も整われている

9月4日(水)

タイ人の方々のミーティングに参加した。言葉も資料も分からないが、真剣にみんなで構想していることが伝わってきた。

またこの工場では各エリアを見回る現場監督という役割をもつ人がいる。この方々全員に仕事についてのインタビューを日本の方の通訳を通して行った。

9月5日(木)

この日は1日プレゼンの準備を行った。

午後には5Sミーティングに参加した。このミーティングは5Sができていないところを報告し、実際に現場に行き整理整頓等がしっかりとできているかを確認する週に1回行われているものだ。この5Sミーティングは社長自ら行っているものである。細かいところまで丁寧に19人の従業員でチェック項目を基に確認していく。できていないところは写真にとり、各部署で直してく。ただできていないところを指摘し合うのではなく

ではどうすればよいか考えており物事を改善していく仕組みが整われていた。また、上の人が自主的に動くことによって感化される人もいると思う。

9月6日(金)

プレゼン当日。パソコンを貸していただき、パワーポイントを使っての発表を行った。タイの方々には通訳をしていただきながらの発表となった。慣れないフィールドでの発表はとても緊張するものであった。1週間という短い期間であったがここで感じたこと、気づいたこと、考えたことを伝えることができたと思う。

このあとは食事に連れて行ってくださった。タイの料理を食べることができ、食文化にも触れることができた。



連れて行ってくださったタイ料理のお店



金型設備(工場内一部)

9月7日(土)

この日は市内見学を行った。ワットポーなどの3大寺院を訪れたり、トゥクトゥクに乗ったりなどのタイならではの乗り物にも乗れ、海外に行くこと自体初めてだった私にとって学生だけで海外を歩くということが良い経験となった。



ワットアルン (3大寺院の一つ)



ワットパクナム

実習中の昼食

インターンシップ中は社内にある社食で昼食をとった。



社食風景（屋外）



ある日の社食。日本円で 60~70 円

### 5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

- ・わからなくてもまずは行動するという事  
ただ分からないからなにもしないのではなくて、分からないからこそ足を使って動いてみる、行動してみることが大切だと感じた。
- ・自分の視野について  
自分の短所として視野が狭いということもあり、海外で働くこと、また製造業で働くことに対し抵抗感があり自分の将来の選択肢としてはなかった。しかし、今回のインターンシップを通して海外で働くということは国が違う人たちと言葉の壁、性格の壁がある中でのコミュニケーションがいかに重要でいかに充実しているものなのか、また製造業はやりがいを感じることができる職種であると考えを改めることができ、インターンシップ参加前よりも視野が広まったのではないかと感じる。

### 6. 今後の課題

Chapter6 problem

自分の視野が狭いことが再認識することができた。製造業に関わってみると自分が初めに製造業に対して抱いていたこととは違い、とても奥が深いことが分かった。コミュニケーションを大切にしていた企業だったので自分の意見を発信すること、人の意見を聞くこと、そして聞いたうえで再考していくことはどの分野に対しても重要だと思えた。これからの大学生活の中で大切にしていきたい。

また、7日目には市内をまわる時間を頂くことができた。タイ語ができないのでつたない英語で話した。海外の方と英語で話す機会はそうそうないが英語をしっかりと学んでまた海外に行くときにしっかりと会話をしたいと感じた。

### 7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

絶対に参加した方がいいと思います。私は今まで海外に行ったことがないということと製造業という分野に触れたことがないということもあり、始めは行くことを悩んでいました。しかし、新しいことを挑戦してみたく、自分の視野を広げたいという思いがあったのでこのチャンスを逃してはいけないと思い行くことを決意しました。少しでも迷っているのであれば今しかできないことを挑戦した方がいいと思います。普段大学で学んでいることは製造関係ではありませんが、様々な視点で物事を考えることができる良いきっかけになると思います是非参加してみてください。

今回のインターンシップを受け入れてくださった武井樹脂製作所の皆さま、お世話になりました。初めての海外で不安なことが多い中、サポートしていただけたおかげで充実した1週間を過ごすことができました。今回感じたこと、考えたことなど得たものを忘れず、これからの大学生活のなかで活かしていきます。

本当にありがとうございました。